



森のなかま

2010年 2月号

NO. 22 (継続167)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 島岡 功

第61回 平成22年5月23日(日)開催!

全国植樹祭2010

かながわ

<大会テーマ>
森が育む あなたの心
森を育む あなたの手

かなりんちゃん

会の総力をあげて支援・協力体制を確立しよう!!

2010年5月、いよいよ本番を迎えます。

会創始以来、かつてない一大イベントに会員の総意をもって取り組む絶好の機会です。

万難を排し、会員の絶大な支援を以って「第61回全国植樹祭」を成功裡に導きましょう。

- ・募集人数(派遣要請数) **150名**
- ・支援・協力内容 **参加者の誘導(植栽地へ)・植樹指導**

<当日の主な日程>

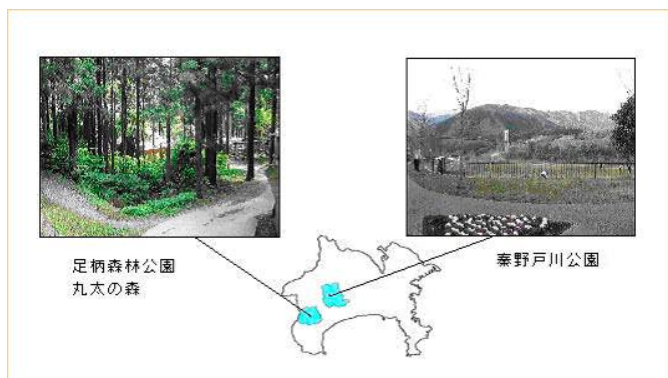
- ・日時 平成22年5月23日(日)・前日リハーサル5月22日(土)
- ・場所 秦野市 県立秦野戸川公園 ・南足柄市 足柄森林公園丸太の森
- ・植樹参加者(県内招待者4300人・県外招待者1180人)
- 秦野 県立秦野戸川公園 午前 3500人
- 南足柄 丸太の森 午前 980人 ・午後 1000人

***秦野会場 記念植樹 7:00 ~ 10:00**
 式典行事 11:00 ~ 13:05 (途中 お手播き 11:50~)
 (2会場連携セレモニー・プロローグ・式典・エピローグ:双方向中継)

***南足柄会場 記念植樹 7:50 ~ 9:15 14:00 ~ 15:25**
 お手植え行事 10:25 ~ 10:50
 (プロローグ・お手植え・エピローグ・2会場連携セレモニー)

お手植え・式典・植樹会場
 (会場イメージ図)

***募集については、おって事務局よりお知らせします。**



全国植樹祭について

柏倉 紘 全国植樹祭担当理事

「第61回全国植樹祭基本方針」から、前文・開催意義をお知らせします。

前文

全国植樹祭（第20回大会までは「国土緑化大会」、第21回大会からは現行の「全国植樹祭」が正式名称となっている。）は豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるため、毎年春季に、社団法人国土緑化推進機構と開催都道府県の共催により行う国土緑化運動の中心的行事で、昭和25年以降、持ち回りで開催されており、神奈川県で、平成22年春に「第61回全国植樹祭」が開催することが決定しました。

これまでこの大会では、天皇皇后両陛下にご臨席を賜り、県内外から多くの参加者にお集まりいただき、式典行事や記念植樹などが行われております。

神奈川県での開催は初めてとなりますが、昭和24年に天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、箱根町仙石原で開催した「愛林日植樹行事」が、全国植樹祭の原型を創造する役割を果たしたと言われております。

開催意義

本県には、丹沢、大山や箱根といった山々から、里山や市街地近郊の樹林地まで、県土の40%近くを占める約95,000㍏の森林があります。

しかしながら、近年、標高800m以上の奥山では、ブナやモミの立ち枯れや風衝地等不適当地への造林による荒廃が目立つようになり、その下に広がる標高800m～300mの山地や標高300m以下の里山では、スギやヒノキの人工林、広葉樹林を問わず、手入れ不足等で下草がなくなり表土が流れ出すなど、県内各地で森林の荒廃が進んでいます。

一方、森林に対する県民の期待は、木材や燃料の提供といったことから、降った雨を蓄え、ゆっくりと流すとともにきれいで美味しい水を育む水源の涵養や、山崩れや土砂の流出を防ぐ災害の防止、野生生物との共生、さらには都市に住む人々の潤いや安らぎなどに大きく変化してきています。

これに加えて、花粉症問題の深刻化に伴い、花粉の主な発生源であるスギやヒノキの人工林に対する施策が、強く求められるようになっていきます。

こうした状況を踏まえ、本県では、平成19年度から「かながわ水源環境保全・再生施策大綱」に基づく「かながわ水源環境保全・再生実行5ヵ年計画」による特別対策をスタートさせ、水源の森林づくり事業の加速化を図るとともに、さらに、今後、半世紀をかけ、「かながわ森林再生50年構想」により、荒廃森林の解消と混交林の拡大を図るなど、森林を抜本的に再生していくこととしています。

平成22年の「全国植樹祭」は、50年後の神奈川の森林の新しい姿を県民全体で共有し、協働して取り組む本県の森林再生を、全国に発信しながら、さらに前進させる大きな節目として開催するものです。



森歩きの楽しみがふくらみます。



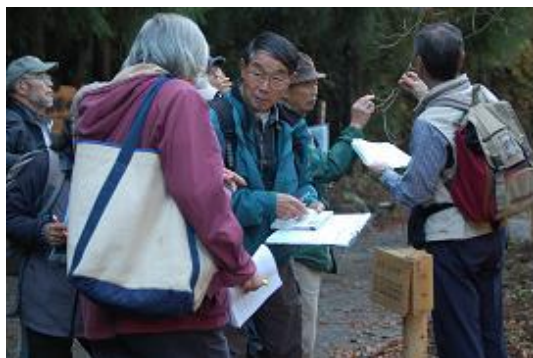
樹名板・埋設工事

やどりき水源林に樹名板が設置されました。

やどりき水源林に樹名板が立ち上がり訪れる方々の関心をひいています。水源林に樹名板を設置する事業は県の「やどりき水源林環境整備業務」の一つとして行われたもので、私達「かながわ森林インストラクターの会」が樹木調査・選定を始め、樹名板の文言作成、埋設工事を請け負わせていただきました。

樹名板は林道コース 40 基、Aコース 20 基、Bコース 20 基、計 80 基。間伐材を利用した総桧作りで水源林にマッチした立ち姿はなかなかの気品を漂わせています。

樹名板には質問形式のタイプ(「この木なんの木」)のものが 35 基あり、これら樹名板からの情報が水源林の森歩きを一層楽しいものにしてくれるものと確信しています。



やどりき森の案内人植物班の面々



樹木調査で幹径を測る



この木、なんの木？
その答えです。



やどりき水源林開花宣言の木・ソメイヨシノ



う～ん 上手く出来てるね。

私の認識

野鳥その75

高橋 恒通

スズメ目ホオジロ科の野鳥の中で私の最も好きな夏鳥のノジコ（漢和名：野路子、英名：Japanese Yellow Bunting, 体長L = 14 cm）をご案内いたしましょう。

体色は 共にほぼ同色です。前稿で紹介しましたアオジに良く似てますが、アオジと区別できる最大のポイントは、目の周りに白色のリングがある点です。その次のポイントは、喉下から胸前にかけて黄色地のみで、アオジの如き黒褐色の縦斑がありません。

成鳥 は、アオジほど明確ではありませんが、目先に黒色の部分があります。そして成鳥 には目先の黒色がありませんし、 に比べて全体の黄色味が淡い点で の判別はできます。

棲息環境は山地の明るい林や低層木の繁る疎林などです。

繁殖期の行動は、深い林内には入らず林縁近くで、



アオジと同じように地上を跳ね歩き乍らクモ類、昆虫類そして草の種子などを採食します。

ノジコは“日本特産種”と言っても過言でないのでは・・・と私が勝手に決め込んでいるのは、全世界の中で我国のみで繁殖する野鳥だからであります。そして越冬は台湾、中国南部、フィリピン北部へ渡って行くからです。

即ち、これまでに判ってる事実は、繁殖も越冬も極東の限られた地域のみのもので、“地域限定”の野鳥だと認識しています。

然も我国での繁殖地が何と驚く勿れ、東北地方から近畿地方の山地で局地的と言う地域限定の偏りのあるオマケつきなのです。

私がノジコに惹かれる最大の理由は、上記のに加えてその囀りなのであります。数多いホオジロ科の野鳥の中でノジコは、その美声がナンバーワンであると認識しております。

囀りは、明るく良く透る声で「チョッチョッピーーチョョロリリ・・・」とか「チョンチョンチーチョッピー」と言う繰り返しです。それはアオジに似た部分もありますが、アオジよりテンポが速く声量も豊かです。啼き声の中に鈴の様なトレモロが混じるのでアオジとの聞き分けはむづかしくありません。

私がノジコに逢い、美声で囀ってる場面に遭遇したのは、清里囀り研究会の時です。

記憶がハッキリしませんが、第5回目頃だったと思います。その日は初日の5時過ぎ頃でした。入浴後、夕食までに少し時間があつたので、涼みがてら双眼鏡片手に宿舍の裏庭を散策中、突然脇の方から明るく朗らかな囀り声が降って来たのです。

余り背の高くないカラマツの頂で啼いていたのでアオジかと思ったのですが、いつも耳にしているアオジの囀りとはテンポも声量もまるで異なっていたのです。

双眼鏡で覗くと目の周囲が白く胸前には褐色縦斑が見当たらないので、「図鑑にあったノジコはこれだったのか・・・」とジックリと観察をし。その美声に聴き惚れたのでした。

一般的に野鳥の囀りは多くの場合が、“早朝”と覚えていたのですが、夕方にもあり得る事を体験しました。

何はともわれ私達の住む日本と深く関わりのあるノジコは、神奈川県下では箱根で囀りや繁殖が確認された記録がありますが、夏の箱根で私は未だに見聞きしてません。

『森のなかま』をご愛読の同志の皆さんも、愛すべき美声のノジコ、日本特産の貴重な野鳥に関心を抱いて戴ければ幸甚であります。

<参考資料>

日本の野鳥 山溪ハンディ図鑑7 写真・解説/
叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、
解説(鳴き声)/上田秀雄、山と溪谷社。
とり、自然ガイド、浜口哲一・文、
佐野裕彦・絵 文一総合出版。
日本の野鳥、山溪カラー名鑑、編・高野伸二、
山と溪谷社
グランド現代百科事典5、研究社
写真：yahoo 写真事典より。

ナチュラリストへの道遠し(その6)

鈴木孝雄<6期>

長竹と6期と大木さんと私

昨年12月上旬、「長竹公社営林」のネットワーク活動が久しぶりにありました。(横浜の小学校の間伐体験)下見のため4年ぶりに長竹に来ましたが、10年前に植えたヒノキの苗木は4Mほどに育ち、木の生命力に感じ入りました。長竹は、私にとって、10年経過した「県森林インストラクター」としての活動の中でも、思い入れの強いフィールドです。

長竹：津久井町長竹切通社営林について、簡単に紹介します。

昭和59～61年、スギ・ヒノキ植栽(9.36ha)

平成9年3月、不審火による山林火災で一部を消失(1.49ha)

国道から近く、傾斜がなだらかなため、市民・小学生・企業などのボランティアによる、被災地の復旧造林と下刈りの森林施行を行うことになる。

平成10年5月、ヒノキ苗木植林を始める(連合神奈川)。9月、下刈り(連合)

11年3月～5月ヒノキ苗木植林(相模原市大野台中央小学校、インストラクター6期、キリンビール、連合神奈川)6月～9月、下刈り(同左)

12年7月～17年7月下刈り(同上団体)

18年秋、枝打ち《裾払い=手の届く高さの枝打ち》

21年秋、間伐

6期：長竹公社営林の一部(0.13ha)は、インストラクター6期生の「森林作業研修林」となっています。養成期間途中の11年5月8日にヒノキ苗500本を植栽してから、17年夏まで毎年下刈り、18年に裾払いをしました。今年の秋には間伐作業が待っているようです。研修作業はまだまだ続きます。

大木さん：平成12年7月15日、長竹で、ネットワーク活動(下刈り)と、6期の下刈り実習がありました。集まった20名近くの6期生の中から3人が活動の指導を行いました。その1人が大木さんでした。作業開始から30分後、突然倒れて心肺停止状態に。仲間が、救急車が来るまで心臓マッサージを継続する。津久井日赤病院へと向かう救急車を、奇跡の起きることを願って追いかけて行きましたが、かなわず帰らぬ人となりました。1年後、倒れた所に植えたケヤキ・ホオノキは、ヒノキに負けず大きく育っています。

インストラクターの会もNPOになり、安全危機管理委員会が出来ました。その委員長に、齋藤・武川とあのとき現場にいた2人が続いているのも、大木さんの導きのように思えてなりません。そして私も、こうして機会ある毎に大木さんの無念を伝える語り部を務めています。

私：手元に1枚の集合写真があります。場所は長竹、日付は平成11年6月21日、下刈り作業のひとつま、6期生のおじさん達15人に混ざって、女の子が2人写っています。当時まだ小学生だった、私の娘です。アウトドアギャルにしようと、21の森・やどりき水源林・愛川ふれあいの村・丹沢湖世附等、森林活動のフィールドに連れ歩いたものです。成人になってみると、親の心子知らず、シティギャルに育ってしまい、内1人はわざわざ六本木まで夜遊びに行く日もあり、嘆かわしい限りです。

私はといえば、大木さんのような温厚な紳士になり損ね、身の程知らずにも役員になり、派遣調整担当者として、年上の強者どもに伍しながら「組織運営の哀しみ」に喘いでいる昨今です。

活動短信

9/5~12/12

紙すき二題 森林文化部会

山北町から依頼を受けて実施した紙すき体験
 <その一> 山北高校・文化祭 9月5日、6日



山北町から依頼を受け、高校生に地元のことをもっと理解してもらうことを目的に、山北高校の文化祭で紙すき体験を行った。会場の教室では紙すきの他に地元の養護施設

の作品展示、クラフト製作団体の実演が行われた。肝心の高校生の参加は少なかったが、文化祭に訪れた地元の方々に紙すきを楽しんでもらった。又、学校の先生方にも我々の行動を理解してもらうことができたと思う。

<その2> 紙すき指導者養成講座(11月11日)

山北町中川地区の紙すき指導も3回目。今回は中川温泉近くの「水源交流の里体験交流館」で実施。前回に続きミツマタの原木から原料を作り、紙すきを行ったが、皆さんかなり上達したようだ。今回はプレス機を導入し、また、秋にちなんで紅葉の押し葉をすきこみ、透かし(もどき?)を入れ、かなり本格的な紙を作ることが出来た。当施設では今年度中に紙すきの設備を整備し、当地に来訪した方々に体験してもらおうようにしたいとのこと。今後の発展が楽しみだ。(記 1期 井出)

厚木市森林づくり体験教室

日 11月21日(土)10時~15時
 場 厚木森林組合・七沢地内
 参 30名
 市 県央合庁森林課・野口課長他2名
 伊 柏倉、

厚木市が主催する3回シリーズの2回目で、午前は「森林を守ることを知る」というテーマについて話をする。(90分)
 午後は移動して、枝打ち・間伐作業を実施。伊勢原ケーブルテレビの取材もあり、後日放映予定。

<講話内容> パワーポイント使用

森林の捉え方 神奈川の保安林 森林仕組み 暮らしを支えている森林(神奈川の森林の現状・厚木の森林の様子) 森林を育てる仕事 今、取り組むこと 等について説明する。

午後は、30年生のヒノキの枝打ちと20年生のヒノキの間伐を行う。参加者の意識は高く熱心であった。(記 4期 柏倉)

森林づくり体験講座

日 11月28日(土)8時半~14時 晴れ
 場 小田原市久野(組合有林)+いこいの森
 参 17名
 財 高橋、鳥海、 田嶋
 伊 L松村俊、石原、黒澤、松村晴、
 横田、海野、後藤、杉崎、角田、
 研 2名

一般応募予定50名のところ、10数名の申し込みにとどまり、インストラクターの声かけもされたが、当日の参加者は研修生も入れて19名と募集の半数に満たない人員での枝打ち作業となった。10年生程のヒノキの枝打ちで4班に分かれての作業であったが、予定をはるかに上回る効率の良いペースで進み11時20分頃には全エリアの作業が完了。午後は「足柄林業の今昔」とのテーマで講話をして頂く事になっていた講師が体調不良で急遽変更。バスにて小田原市「いこいの森」に移動、昼食後、ミニ講話、園内の自然観察を40分ほど実施して、本日の講座は終了となった。午後の講話をお聴きするのを楽しみに来られた参加者もおられた事だと思いません。拙いミニ講話をお聴きいただき恐縮でした。(記 8期 松村俊)

間伐作業+間伐材利用のベンチ作り

日 11月28日(土)10時~12時 曇りのち晴れ
 場 やどりき水源林
 参 日立電子サービス(日立電サさん)
 市 社員とその家族 14名(内子供3名)
 伊 齊藤
 研 L齊藤、鈴木松、

今回の活動は今年2度目。内容も同じと言うことで電話による打ち合わせのみで実施した。各自、マイカーによる現地集合であったが遅れ、10時20分・・・作業他諸注意。
 10時40分・・・開始。杉の樹高は10m以上ありかかり木を心配したか一本は豪快に倒れたものの四本の予定が三本で終了。

ベンチ作りもヒノキと違いスギは樹皮を剥がすのに手間がかかり、やむなく樹皮付きで二脚つくった。間伐やかかり木処理も、ベンチ作りも苦労したが終わって見れば食事時間も忘れて楽しい活動であった。13時終了。(記 6期 齊藤)

県民参加の森林づくり(枝打ち)

日 12月12日(土)9時20分~13時
 場 小田原市久野(一部事務組合有林)
 参 県民 54名
 財 豊丸、永島、 廣島 用具 石鍋
 伊 L小笠原、菊地、森田、米山、横山
 小野、坂齋、松村俊、鈴木、
 草野、浦野、福島、後藤、酒井、
 研 2名

前日の雨がすっかり上がり12月とはおもえない暖かな日で、マイクロバス3台で現地に向かう。今回の現場は昨年まで下刈り作業に入っていた地でヒノキの7年生と広葉樹の枝打ち作業をおこなう。現場の状況説明後、準備体操を行う。5班に分かれて作業を行ったが、斜面の向き等で同時期に植栽されても成長の度合いが異なるため各班の状況に応じてどのくらい枝打ちをするかは各班のインストラクターが考慮の上決定した。

当初は昼食後、午後まで作業が計画されていたが参加者の活躍により、午前中に全ての作業が終了した。昼食後、“ヒノキの一生”についての森林講話をリーダー初陣の私が行う。午後の作業区域がないため13時過ぎにバスに乗車して小田原に戻り、解散となった。

参加したインストラクターの反省会では・・・。

枝打ち時間と広さの見積もりはどうなっているのか？ リピーターが多くなってきているが、何故枝打ちをするのか？ 解っていない人も見受けられるのでもう少し説明が必要ではないか？等の意見がでた。

(記 10期 小笠原)

松田町だより 5

第12回 まつだ桜まつり イベント開催期間は2月13日～3月7日までの土、日です。2月13日(土) **オープンセレモニー**：足柄太鼓演奏・丹沢アルプホルン・大正琴演奏・野点・手話の歌コンサート・



フォークギター・フォルクローレ演奏・ウクレレ & ボーカルコンサート・盛りだくさんで楽しいですよ。JR松田北口よりイベント期間、シャトルバスが出てます。

交通案内：0465 - 82 0367



松田山の河津桜と菜の花

写真：広報部（鈴木松弘）

やどりき水源林・恒例の山の神祭



毎年恒例の、やどりき水源林内山の祠にて山の神祭が1月17日に75名の参加で執り行われました。この日は山仕事は休み、一年の森の作業の安全を祈願しました。

11期生歓迎会<わたや>



この日の最終イベントは、はつらつ11期生の歓迎会が松田「わたや」で開かれました。総勢73名の参加・大歓迎会でした。11期生の今後の活躍を大いに期待しています。*****

写真：広報部（鈴木松弘）

やどりき水源林
ミニガイド

1月のトピックス



11期生も参加して、厳かに山の神事が執り行われました。

2月の水源林



木々の冬芽が膨らんできました。クロモジの丸いのは花芽・真ん中は葉芽です。春はもうすぐ

「森の案内人」情報

実施時間：毎週土曜・日曜・午後1時より1~2時間程度(冬季休止)

集合：水源林入口ゲート前

内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

問合せ：(財)かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255 fax:045-412-2300

- ホームページ： <http://www.ktm.or.jp>
- E-mail: midori@ktm.or.jp
- やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

県立生命の星・地球博物館の木の見かた。楽しみかた講座
1本の枝からどんなことが解るか?

開催日：3月7日/10時~15時
講師：科学博物館名誉研究員 樹形研究会代表・八田洋章先生
場所：生命の星・地球博物館3階
参加費：1000円/人
参加人員：35人/2/15(必着)
申し込み：往復はがきに、参加者氏名、住所、電話番号、を記して 〒250-0031 小田原市入生田499 地球博物館友の会事務局まで

森のなかま原稿募集

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送先

< 電子配信希望 >

森 義徳 〒232-0053
横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202
Tel/090-5433-7784 Fax/ < 株リコー・森宛 045-590-1910 >

Mail: myforest@yha.att.ne.jp

< メール・手書き原稿送り先 >

【本誌】村井正孝

〒226-0002
横浜市緑区東本郷6-22-1-420
Tel/Fax: 045-476-4112
Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038
横浜市青葉区奈良2丁目10-5
Tel/Fax: 045-961-6695
Mail: i_kanamori@morinotabibito.com

【CCで】森本正信

〒194-0001
東京都町田市つくし野2-13-7
Tel/Fax: 042-796-6011
Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp
原稿の締切は毎月20日です。

< 編集後記 >

年末に千葉に所有する山の除伐を終えました。一昨年の夏から延べ15日間、すっきりした森にたくさんの野鳥や猛禽が帰ってきました。今後は大径木の間伐や森林癒しの体験場所として活用してゆきます。(金森)

25%CO₂削減、聞けば、牛羊のげっぷからメタンが出る。メタンは10倍のCO₂を出す。世界的な重要なテーマだそう。人間もCO₂を出す。呼吸の制限は不可。人類の英知は無いのか。編集後記今年もよろしく。(鈴木松)

受験シーズン真っ只中。本人もまわりも落ち着かない日々ですが、明るい春の到来を待つばかりです。(鈴木朗)

ホームページをさらに良いものにしたいと考えています。まずはトップページを更新しました。ご意見、ご提案をよろしく願います。(井出)

今月は疫病神にたたられどうでした。山の神祭の頃は胃腸や風邪で不調。今は咳が止まらず、パソコン疲れか、目の奥や右肩に疲れが出て散々でしたが、やっと「森のなかま」本誌を発行することができました。会報と言えば、嬉しいことに11期の川森さんが、連続して助っ人として登場。来月は同じ11期の柳澤さんもお手伝い頂けるとの吉報。ありがたいことです。皆様も広報部にぶらっと遊びにいらしては? 2月は26日(金)です。(村井)

年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

広報部：井出恒夫(H.P) 鈴木松弘

金森 巖 森本正信

森 義徳 鈴木朗

川森健司

参加者募集

2月13日(土)
13時半から

主催：財団法人
かながわトラスト
みどり財団
申し込み：045-
412-2255ま
で

森林づくりフォーラム

~みんなの参加でかながわの森林を育もう~

会場：はまぎんホール「ヴィアマール」
横浜銀行本店ビル1階 最寄り駅：JR・市営地下鉄
「桜木町駅」動く歩道利用5分・みなとみらい線「みなとみらい駅」から徒歩7分